

平成 28 年度事業報告および決算

平成29年6月5日



北陸経済連合会

平成 28 年度事業計画の実施状況と評価・方向性（総合対策委員会）

I. 住みたい、働きたい、魅力あふれる北陸

1. 地域力の向上：総合対策委員会

アクションプラン実施項目	平成 28 年度事業計画	実施状況	評 価・方向性
(1) 地方定着・地方回帰による定住人口増加に向けた取組み ①魅力ある仕事、職場の創出	<ul style="list-style-type: none"> 企業の技術開発や競争力を強化するための国の補助金等支援制度（「サポイン補助金」「ものづくり補助金」等）の紹介（HP、トピックス、懇談会等） 企業の人材育成に資する補助金等支援制度（「地域中小企業人材バンク事業」等）の紹介（HP、トピックス、懇談会等） 	<ul style="list-style-type: none"> ○会員への紹介、PR 冊子「地方から世界への飛躍 グローバルな事業展開を応援します」（内閣官房とりまとめ）の配布及びPR（8/9 富山会員懇談会、9/27 石川会員懇談会、H29. 2/21 福井会員懇談会にて配付） 	<ul style="list-style-type: none"> 懇談会のみならず、当会HPでの紹介や会報やトピックス発送のタイミングを捉えた紹介を継続
②北陸地域内大学の連携による人材育成および域内就業促進 <ul style="list-style-type: none"> 「北陸のシェアトップ 100」等による北陸地域の優れた企業のPR 北陸地域内企業のインターンシップ制度の導入促進 北陸地域内企業の優れた人材の大学への講師派遣の促進 国際人の育成（海外インターンシップの促進支援 等） 	<ul style="list-style-type: none"> 「北陸のシェアトップ 100」の北陸地域内大学への配布、周知、大学 説明会等での活用 「北陸のシェアトップ 100」以外の魅力ある北陸企業紹介 会員大学就職課との更なる連携（企業情報提供、北陸生活環境の優れた点アピール） 北陸での就職率向上を目指した、三県推進組織との連携（会員企業との個別マッチング、域内企業情報提供、北陸生活環境の優れた点アピール、会員企業への三県推進組織の紹介） 他経連取組み状況調査（中経連ほか） 会員企業と大学とのマッチング支援（ASEAN を中心とした海外インターンシップ） 北陸AJEC、JICA等との連携、支援（補助制度の説明や案内等） 	<ul style="list-style-type: none"> ○「北陸のシェアトップ 100」の活用 <ul style="list-style-type: none"> 石川県立大、富山県立大等へ配付（約 400 部） いしかわインターンシップフェア（5/14）での説明、配布 ○第 3 回北陸産学連携懇談会（学長懇）開催（7/6） テーマ：「学生の地方定着」 ○北陸産学連携交流会開催（2/7） テーマ：「インターンシップのあり方について」 ○金沢大学見学会（先端技術推進委との合同開催）（11/2） 会員企業による金沢大学 角間キャンパス 自然科学本館・研究棟での研究内容視察 ○文科省による「インターンシップの推進等に関する調査研究協力者会議」の検討状況を調査・把握 <p>※上記実施項目は産学連携を進める先端技術推進委を中心に活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> 大学の「知」と連携し産業振興や国際経済交流などの事業の更なる推進を図り、また経済界としても北陸の「知」の拠点としての大学の発展に協力している。これからも学長懇等から出てきた課題の検討を進めながら連携を深めていく。 「北陸のシェアトップ 100」について、幅広い機会を捉えて周知を図っていく。また更新作業に着手する。（新たなシェアトップ企業を調査・掲載） インターンシップに関して会員への情報提供やPRを行う。 講師派遣に関し他経連取組み状況を調査する。（中経連ほか）
③域外大学進学者等の UIJ ターンの促進 <ul style="list-style-type: none"> 域外大学進学者に対する「北陸シェアトップ 100」等による北陸地域内の優れた企業のPR 	<ul style="list-style-type: none"> 自治体等との連携（域外での就職フェア等へ協力） 	<ul style="list-style-type: none"> ○関東地区大学理工系就職研究会（事務局：千葉工大）へのアプローチ <ul style="list-style-type: none"> 訪問（H28 年 3 月）し、UIJ ターン等の情報交換 北陸の企業立地環境等PRを目的に北経連等が出展した産業展示会「シーテックジャパン」への来場促進 	<ul style="list-style-type: none"> 自治体や会員大学就職課との連携を密にし、域外での北陸企業紹介機会の積極的な活用を目指す 域外大学（大都市圏大学の就職担当部門）への情報発信
(2) 女性が働き続けられる社会の実現に向けた取組み ①女性部会の提言（子育て、介護等、離職防止のための施策に関するもの等）	<ul style="list-style-type: none"> 女性・子どもの北陸移住に向けたPR、女性の企業トップによる講演会、部会員による企業視察 女性が働き続けられる社会実現に向けた政府要望項目検討、政府要望活動への参加 	<ul style="list-style-type: none"> ○ひとり親家庭の北陸移住推進 女性部会での意見交換、石川会員懇談会（9/27）での会員向けPR、県や市等の自治体訪問による理解醸成、とやま移住・転職フェアへの出展（12/18：富山県内企業 4 社） ○女性の企業トップ講演（9/27：石川会員懇談会） 吉田晴乃氏（経団連審議委員会副議長、BTジャパン社長） ○部会員による企業視察（6/23） 女性部会によるYKK視察（センターパーク、パッシブタウン）および小林聖子執行役員（YKK 初の女性役員）らとの意見交換 ○政府要望対応 政府要望項目検討（6/10）、女性部会役員（浅野女性部会長、森田副部会長）による政府要望同行（7/25、26） 	<ul style="list-style-type: none"> 「ひとり親家庭の北陸移住推進」は、経済団体が取り組む官民連携による「ひとり親家庭支援」としては全国でも初めてのものであり、女性部会を中心として協力会員企業の発掘、北陸域内自治体や大都市圏の対象者への理解浸透に向けて進めていく。 ひとり親家庭に限らず、北陸があらゆる働く女性に対して好条件の地域であることを域外に訴求する。 会員企業において、こうした域外の働く意欲のある女性の雇用促進を図る。 女性の活躍推進を目指す政府の方針を踏まえ、女性の観点（女性ならではの、女性だからこそ）からの意見を北陸経済界からの意見、要望に反映。引き続き現状を踏まえ、要望を継続。
(3) リタイア人材の活用	<ul style="list-style-type: none"> 北陸地域内の関係諸団体（経営者協会、シルバー人材センター、労働局等）が実施するセミナー、合同説明会等への支援およびPR（北経連 HP、トピックス等） 合同説明会への会員企業の参加呼びかけ 	<ul style="list-style-type: none"> ○国、県の関係部署とのネットワークの構築 <ul style="list-style-type: none"> 「高齢者雇用促進セミナー」（10/31：金沢）への参加による（独）高齢・障害・求職者雇用支援機構石川支部との関係構築 三県高齢者人材活用部門への訪問による関係構築（4 月） 「シルバー世代の活躍推進を考えるシンポジウム」（2/18：富山） 	<ul style="list-style-type: none"> 当会HPでの高齢者雇用に関する国・県の支援策、セミナー等の情報発信の実施
(4) 二地域居住の推進支援	<ul style="list-style-type: none"> 北陸の魅力PR実施（北陸イメージアップ推進協議会HP等） 北陸域内の二地域居住実例調査・紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ○政府要望への織り込み 当会単独要望（7/25、26）において、地方と大都市圏との二地域居住および地方移住における地方での居住環境整備に向けた財政・税制支援を要望 	<ul style="list-style-type: none"> 当会HPおよび北陸イメージアップ推進会議HPでの北陸の魅力、移住情報等の情報発信 多地域居住（マルチハビテーション）の検討

アクションプラン実施項目	平成 28 年度事業計画	実施状況	評 価・方向性
(5) 魅力あるまちづくりに関する 取組み ①北陸地域内の地域経済の専 門家とのネットワークづくり	・北陸地域政策研究フォーラムとの連携 ・会員大学研究者の活用（会員懇談会等での講演）	○北陸地域政策研究フォーラム後援（1/22：金沢）	・更なる関係機関や関係者とのネットワーク構築および専門家招聘による講演会等の開催を目指す ・北陸三県としての経済力把握を行い、その実力を踏まえた上で、北陸の発展の方向性を検討する。
②PPP、PFI 等民間活力の活用	・「PPP、PFI セミナー」（日本政策投資銀行等との共催）への支援およびPR	○検討会議体やセミナー等への参加 ・北陸ブロックにおける官民連携事業の推進のための地方ブロックプラットフォームコアメンバー会議（5/25） ・とやま地域プラットフォーム（11/28、1/26、2/21）参加 ・ふくい地域プラットフォーム（12/22、1/25、3/16）参加（富山、福井の当会会員に開催案内送付による周知） ・官民連携のための北陸プラットフォームコアメンバー会議（1/13：金沢）	・コンセッション方式（インフラ運営権の民間への売却）に関する当会内での勉強会の開催（仙台空港、愛知道路コンセッション株） ・富山および福井でのプラットフォーム動向フォロー（石川での立ち上げは 29 年度の立ち上げを目指し調整中）
(6) エネルギーセキュリティ強化 に向けた取組み ①原子力、再生可能エネルギー の推進	・政府要望への織込み ・経産局等への協力等（経産省事業等への後援、支援等） ・情報収集、自治体、エネルギー事業者等との情報交換等	○政府要望への織込み 当会単独要望（7/25、26）、西日本経済協議会（10/19）、三経連（10/21）等において、電力の安定供給の確保や「重要なベースロード電源」と位置付けられた原子力発電の迅速な安全確認、安全性が確認された原子力発電所の速やかな再稼働など持続的な経済成長を実現できるエネルギー政策の実施を要望 ○懇談会等でのアピール 経団連との懇談会（11/8：金沢）、北陸選出自民党議員との懇談会（11/17：東京）等にてアピール	・あらゆる機会を捉えてアピールしているものの、今もなお、原子力発電の大幅な減少をなんとか火力発電でカバーしている状況に変わりはない ・原子力発電所の停止に伴う電力の安定供給への懸念とエネルギーコストの上昇により、国際競争力の低下と産業への空洞化への影響が顕在していることから、安全性が確認された原子力発電所の速やかな再稼働等を強く要望していく ・また、既存の原子力発電所は、その価値を十分に発揮するべく、可能な限り長期に渡り活用できるための環境整備を要望していく
②水素エネルギー、地熱、メタン ハイドレート等の活用推進 支援	・政府要望への織込み ・経産局等への協力等（経産省事業等への後援、支援等） ・情報収集、自治体、エネルギー事業者等との情報交換等		
(7) 国等に対する提言機能の強化	・政府要望活動（政府要望WG取りまとめ、政府与党等訪問） ・国・3 県等の活動フォロー ・行政当局・政党との懇談会開催	○政府に対する北陸経済界からの要望書作成、要望 ・WGによる検討、取りまとめ（5/26、6/21） ・総合対策委員会（7/6）、常任理事会（7/14） ・政府、与党等に対する要望活動（7/25～26：東京） 要望先：自民党（細田幹事長代行（当時）、公明党（井上幹事長）他、関係省庁、北陸選出国会議員等に面談、提出 ○西日本経済協議会要望 ・会員総会・決議（10/5：広島） ・要望活動（10/19：東京） 要望先：自民党（二階幹事長、細田総務会長、茂木政調会長）、内閣府（加藤大臣、務台大臣政務官）、財務省（木原副大臣）、経産省（世耕大臣）、国交省（石井大臣）、首相官邸（野上内閣官房副長官） ○三経連経済懇談会要望 ・三経連経済懇談会・決議（9/20：金沢） ・要望活動（10/20：東京） 要望先：自民党（望月幹事長代理、岡田幹事長代理）、公明党（井上幹事長、漆原中央幹事会長）、内閣府（山本特命担当大臣）、国交省（石井大臣）、文科省（田野瀬大臣政務官）、復興庁（橋副大臣）、経産省（井原大臣政務官） ○中部経済産業局、近畿経済産業局との懇談会（9/29：福井） ○北陸・近畿地方整備局、北陸信越・中部運輸局との懇談会（2/28：福井） ○北陸選出自民党議員との懇談会開催（11/17：東京） ・政府に対する北陸経済界からの要望および北陸新幹線の建設促進に関する当会の取組み等を説明	・政府与党を始めとする重要箇所に対し、北陸経済界からの意見・要望をご理解いただくべく直接要望できる貴重な機会として有効 ・要望項目の施策への反映状況を確認予定（H29 春） 要望項目の反映状況確認、整理等を踏まえ、要望を継続（7/24） ・H29 年度の西日本経済協議会は北陸が幹事。総会、要望活動等、諸準備を適宜進める。 （総会：10/4、要望活動：10/19） ・H29 年度三経連経済懇談会（幹事：東北） （懇談会：7/20～21、要望活動：7/25） ・北陸経済界の意見・要望をご理解いただくべく、国会議員に直接、説明することができた ・議員との直接の意見交換の機会として有効であり、継続して実施
(8) その他		○総合対策委員会開催（4/12、7/6、12/16）、女性部会開催（4/11、6/10、6/23、9/16、2/13） ○経団連との連携協定調印（9/14：東京）および事案紹介等（9 件） ○低炭素社会の形成に伴う環境ビジネス創出の支援〔関連組織：北陸環境共生会議〕 ・北陸環境共生会議幹事会（5/25）、EPO 中部北陸委員会（7/4）、北陸環境共生会議幹事会名古屋視察、EPO 中部との意見交換（8/22、23）、いしかわ環境フェア 2016（8/27、28）、とやま環境フェア 2016（10/15、16）、ふくい環境フェア 2016（11/23）	・連携協定の会員企業へのPR、積極的な活用促進によるマッチングを行う ・H29 年 11 月に創立 50 周年を迎えることから、50 周年にふさわしい各種企画を実施していく。

平成 28 年度事業計画の実施状況と評価・方向性（先端技術推進委員会）

I. 住みたい、働きたい、魅力あふれる北陸

2. 産業振興：先端技術推進委員会

アクションプラン実施項目	平成 28 年度事業計画	実施状況	評 価・方向性
(1) 域内産業集積を活かしたものづくり拠点形成支援 ① ライフサイエンス産業の振興支援 北陸ライフサイエンスクラスター事業の推進 [H I A C 実施(北経連支援)]	HIAC が総合調整機関として推進している地域イノベーション戦略支援プログラム(文科省補助事業)を支援 ・北経連ネットワーク活用等によるライフサイエンス分野への参画企業拡大支援・講演会開催、クラスター主催シンポジウム等の共同開催・後援 ・クラスター事業の活動に資する情報提供 ・北陸(日本)・韓国経済交流会議等による海外展開支援 ・分科会等開催により先方関係者との意見交換 ・その他ライフサイエンス分野の振興支援	・HIAC が主催するライフサイエンスクラスターシンポジウムを後援、および北経連会員へ周知 ・北陸ライフサイエンスクラスターへ医工融合研究会(主催:金沢工業大学等、共催:北経連)の情報を提供 ・北陸・韓国経済交流会議(北経連、北陸 AJEC 共催)において北陸ライフサイエンスクラスターと原州医療機器テクノバレーの間に医療クラスター会議を開催 ・講演会開催 「最新の接合技術～分子構造変化を利用した複合材料と金属の直接接合～」(4/19、金沢市 80 名参加 主催 北経連、後援 中部経産局北陸支局) ・講師：大阪大学接合科学研究所教授 近藤勝義氏 ・講演後、交流会実施 ・講師との個別面談希望者について後日機会を設定 ・参加者アンケート結果：参考になった 97.6% ・見学会開催 東レ・カーボンマジック社(8/24、米原市 24 名参加) ・炭素繊維複合材料による自動車部品等の設計・試作現場、試験設備等の見学・意見交換	・国内外の北経連のネットワークを活かして北陸ライフサイエンスクラスターへの情報提供、ネットワーク拡大を支援することができた。 ・文科省補助事業が適用される平成 29 年度までは支援を継続する。また以降については支援のあり方も含めて検討を進める。 ・大学の研究内容や企業活動の情報を提供することで、研究者や企業関係者とのネットワークづくりを支援することができた。 ・炭素繊維複合材料をはじめとした高機能新素材に関する最新動向情報を継続して提供する。
(2) 新規事業創出、産業高度化、付加価値向上のための産学官連携支援 ① 研究会等による推進	各分野において関係各所と連携し、情報交換等の場を提供 ・「次世代ロボット研究会・北陸」の開催 ・「高信頼システム情報交換会」の開催 ・北陸情報通信協議会(北陸総合通信局)との連携・協力 ・医工融合研究会への支援	・次世代ロボット研究会 ・見学会開催 ・自動運転自動車(9/15、珠洲市、北陸情報通信協議会と合同開催 北経連から 19 名参加、総勢 38 名) ・金沢大学菅沼教授の研究である「自動運転自動車公道実証実験」について講演と試乗体験 ・講演会開催 「次世代人工知能技術研究開発～A I によるビッグデータ活用と社会実装の課題～」(10/11、金沢市 60 名参加) ・講師：産業技術総合研究所 人工知能研究センター 首席研究員 本村 陽一氏 ・講演会終了後に講師と北経連役員との意見交換会を実施(11 名参加) ・高信頼システム情報交換会(北陸先端科学技術大学院大学との共催)講演会開催 ・ICT セミナー(8/29、金沢市 50 名参加) ・講師：総務省通信規格課 企画官 山口 修治氏 ほか ・IP v 6 サミット in 金沢(12/12、金沢市 50 名参加) ・講師：東京大学大学院 情報理工学系研究科教授 江崎 浩氏 ほか	・注目度の高い「自動運転」や「人口知能」、「I o T」について北陸情報通信協議会と協力して最新の情報を提供することができた。 ・自動運転車については、実際に公道で試乗することにより技術の進捗状況を体感できた。 ・人工知能については講演会後に意見交換会を開催することにより理解を深めてもらうことができた。 ・「第 4 次産業革命」や「ソサエティ 5.0」など超スマート社会への移行に対応するため、その要素となる「ロボット」、「自動運転」、「人工知能」、「I o T」などの先端技術分野の最新情報を提供するとともに、研究者や企業関係者のネットワーク拡大を支援する。

アクションプラン実施項目	平成 28 年度事業計画	実施状況	評 価・方向性
		<ul style="list-style-type: none"> ・北陸情報通信協議会(北陸総合通信局)との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・講演会、見学会等の後援や会員への参加要請・情報提供 <ul style="list-style-type: none"> 「自動運転自動車市街地公道実証実験見学会」(9/15)〈再掲〉 「北陸地域 ICT イノベーションセミナー」(11/22) 「サイバーセキュリティセミナー」(2/16) ・6月に出された提言「北陸地域をわが国のIoT研究拠点に」を政府への要望活動事項に盛り込み ・医工融合研究会(金沢工業大学主催)への支援 <ul style="list-style-type: none"> ・医療・介護機材等の開発研究に関する参加者間(大学・企業)の情報収集や技術交流を支援(6/17、9/2、11/18) ・その他の後援・支援 <ul style="list-style-type: none"> 「セキュリティ・ミニキャンプ in 北陸」(12/3~4) (主催:金沢大、金沢工大、北陸先端大) 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究会等の活動は医工連携に関わる情報共有の機会となり、今後の連携拡大が期待される。
②技術アドバイス・コーディネート活動 [HIAC実施(北経連支援)]	<ul style="list-style-type: none"> ・各種交流の場を通して得られた大学の研究シーズや企業のニーズを産官学連携コーディネータ[HIAC]に橋渡しすることにより、産学官連携による事業展開やマッチング等を支援 ・公的支援事業や補助金制度情報の入手及び関連組織・企業への情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・HIACへの橋渡し:11件 ・NEDOによる説明会「中堅・中小企業への橋渡し研究開発促進事業」を開催し情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・北経連のネットワークの中で得た大学の研究シーズや企業のニーズ情報を適宜HIACへ橋渡ししていく。 <<参考>> 経団連との「地域経済活性化に向けた連携協定」(総合対策委員会所管)に関するフォロー
③北陸地域ものづくり展示会への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・北陸技術交流テクノフェアやマッチングハブ金沢など地域の展示会開催に対する協力 	<ul style="list-style-type: none"> ・展示会への出展 <ul style="list-style-type: none"> ・北陸技術交流テクノフェア(10/20~21 福井市 主催:技術交流テクノフェア実行委員会[北経連は実行委員]、来場14千名) ・今年度テーマ:「人と暮らしの近未来テクノロジー」 ・北経連ブースにて、次世代ロボット研究会会員大学6研究室の研究内容を展示・解説 <ul style="list-style-type: none"> ・金沢工業大:起立着座動作支援装置、見守りセンサーネットワーク ・富山県立大:超小型電気自動車の自動走行技術ほか ・福井工業大:起立支援装置 ・マッチングハブ金沢(11/1~2 金沢市 共催:北陸先端科学技術大学院大学・中小機構・産総研、後援:北経連) <ul style="list-style-type: none"> ・北経連ブースにおいて産業振興の取り組みや「北陸のシェアトップ100」などをPR 	<ul style="list-style-type: none"> ・各大学の研究室の先生や学生が展示内容を説明した。多くのブース来場者があり、盛況であった。 ・各大学の次世代ロボット研究会参加メンバー等の研究内容を企業等にPRでき、今後の企業との連携が期待される。 ・北陸技術交流テクノフェア、マッチングハブ金沢への協力を継続する。
(3)新技術等の活用による産業振興支援 ①講演会、セミナー等による事例紹介、啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・最新技術に精通した講師による講演会、セミナー等を開催し、時宜を得た情報提供・事例紹介を実施(例:AI、自動運転、IoT) ・上記参加者同士の交流の場や講師との面談の場を提供 ・「北陸のシェアトップ100」(世界または日本国内で高いシェアを誇る131製品を紹介)の有効活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会開催 <ul style="list-style-type: none"> ・〈再掲〉「最新の接合技術~分子構造変化を利用した複合材料と金属の直接接合~」(金沢市) ・講師:大阪大学接合科学研究所教授 近藤勝義氏 ・「6次産業化の方策を探る~日本の発酵、北陸の発酵~」(11/28 先端技術推進委員会) <ul style="list-style-type: none"> ・講師 石川県立大学学長 熊谷英彦氏 	<ul style="list-style-type: none"> ・新技術動向についての情報収集の機会とすることができ、研究者や企業関係者とのネットワーク構築を支援することができた。 ・新技術の事例、開発動向を継続発信する。
②大学・企業の視察会、最新技術の紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・大学の研究施設や企業(「シェアトップ100」を含む)の先端施設の視察会等を実施し、最新技術を紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学見学会開催(総合対策委員会と共催) <ul style="list-style-type: none"> ・金沢大学角間キャンパスにて先端的研究を見学、意見交換(11/2、21名参加) ・山崎学長による大学の取組みの概要説明 ・主要先端4研究テーマの紹介および研究室見学 ・最新技術見学会開催 <ul style="list-style-type: none"> ・〈再掲〉東レ・カーボンマジック社 ・〈再掲〉自動運転自動車 ・〈再掲〉医工融合研究会の情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学見学会はこれまで先端大、金工大、金大を実施 ・企業と大学が活動や施設の内容を知る機会となり、今後の連携への発展が期待される。 ・今後はその他の大学や企業についても施設の視察会等を企画していく。 ・また管内外の最新技術情報について幅広く提供していく。

アクションプラン実施項目	平成 28 年度事業計画	実施状況	評 価・方向性
(4) 企業の人材育成支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 業務能力向上を支援（例：知的財産、デザイン、サイバーセキュリティ） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講演会 「ものづくりにおけるデザイン」（1/11、金沢市 80 名参加） 講師（株）平野設計会長 平野拓夫氏（元金沢美術工芸大学学長） ・ 参加者アンケート結果：参考になった 95.9% 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ものづくりにおいて重要性が高まっているデザイン等の分野における人材育成に資する情報を提供していく。
(5) 企業誘致等 ① 域外企業の本社機能移転の促進支援 ② 研究機関等政府関係機関の誘致支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 首都圏、及び中京または関西圏における大規模展示会に出展し北陸の企業立地環境（本社機能を含む）の PR を実施 ・ 北陸 3 県等の誘致要望内容を情報収集 ・ 国への政策提言・要望に反映 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大規模展示会等への出展 PR ・ シーテックジャパン 2016（10/4～7 千葉市） ・ アンケート：367 件 パンフセット：463 袋 ・ メッセナゴヤ 2016（10/26～29 名古屋市） ・ アンケート：304 件 パンフセット：304 袋 ・ 北陸フォーラム（2/7 東京） 約 1,000 名が来場 [講演会] 講師：阿川佐和子氏、坂東真理子氏（対談） 対談テーマ：「“女性の視点”から「企業を斬る」」 [懇親会] 陳建一氏、篠井英介氏（俳優）、JR アテンダント、ANA/JAL の CA による北陸 PR 他 [ミニ講座] Tomomi さん（北陸在住アーティスト） ・ 国への要望活動事項に盛り込み 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ものづくり企業が多く集まる展示会において、北陸の企業立地環境を PR し、アンケートによる情報収集ができた。 ・ 首都圏、及び中京または関西圏における大規模展示会に出展し北陸の企業立地環境（本社・研究機能を含む）の PR を実施。
(6) 6 次産業化に資する農林水産業との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学研究者、行政と連携し、先進的事例等の情報収集 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講演会 〈再掲〉「6 次産業化の方策を探る～日本の発酵、北陸の発酵～」（11/28 先端技術推進委員会） ・ 講師：石川県立大学学長 熊谷英彦氏 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農政局等行政機関との連携も視野に入れて検討していく。

平成 28 年度事業計画の実施状況と評価・方向性（社会基盤整備委員会）

Ⅱ. 三大都市圏に近接する特性を活かし、日本海国土軸の中核を担う北陸

1. 社会基盤整備：社会基盤整備委員会

アクションプラン実施項目	平成 28 年度事業計画	実施状況	評 価・方向性
(1) 広域社会基盤整備の促進 ① 関東、関西および中部との交流促進のためのアクセスの向上 ・北陸新幹線の敦賀までの早期開業	・北陸三県等と連携した政府、与党等に対する、早期開業に向けた要望活動 ・金沢開業効果の検証と課題の整理【調査研究】	○政府・与党等に対する要望活動実施。 ⇒各要請や経団連との懇談会(11/8)等のあらゆる機会を捉えて、年内の敦賀以西ルート決定と大阪までの早期全線整備についてアピール。 ○調査研究【中間発表】⇒調査委託：福井県立大学江川講師「北陸新幹線金沢開業効果の検証と課題の整理」	○要望活動継続実施 ・2022 年度末までの確実な開業。 ・敦賀開業後の中京へのアクセス維持向上 ○調査研究報告書受領(2017 年 6 月予定) ⇒調査内容を踏まえ、地域の課題を整理し問題提起および解決に向けた取り組みを行う。
・フル規格での大阪までの延伸	・北陸三県、関西経済連合会等と連携した政府、与党等に対する、2016 年中の敦賀以西ルート決定と 2030 年頃までの一日も早いフル規格での大阪までの全線整備に向けた要望活動 ・敦賀以西ルートの情報収集	○情報収集 ⇒11/11 国土交通省による敦賀以西 3 ルート調査結果公表。 11/15 会長記者会見にて、「小浜－京都」ルート案を支持表明。 →「小浜－京都ルート」に決定 ⇒3/7 国土交通省による「京都－新大阪ルート」2 案調査結果公表。 →3/15 正式決定 ○関西経済連合会との連携 ⇒2/10 第 55 回関西財界セミナーへ出席し、早期全線整備の必要性についてアピールした。(会長・山崎委員長) ⇒関経連機関紙「経済人 3 月号」北陸新幹線特集において、会長寄稿し、早期延伸に向けた関西の主体的働きかけが必要であると提言。	○大阪までの 2030 年ごろまでの一日も早い開業に向け要望活動実施 ・財源確保、早期着工 ・中京圏へのアクセス確保 ・在来線存続、地域利便性確保への支援 ○関経連との共同調査 ⇒大阪早期開業の前倒しによる経済効果の拡大値を測定し、要望活動に反映する。
	・BCP を念頭に置いたゴールデンループの活用検討	○ゴールデンループ ⇒インバウンド需要のみならず、大規模災害時の東海道新幹線代替機能としての役割を、各要請や懇談会等にてアピール実施。	○ゴールデンループについて、広域観光推進および企業誘致分野と連携し、PR 継続。
② 陸・海・空一体となった人流・物流基盤の整備促進 ・太平洋側での巨大災害発生時に実質的な代替機能を持つ物流ネットワークの整備	・「北陸地域国際物流戦略チーム広域バックアップ専門部会」への参画	○「北陸地域国際物流戦略チーム広域バックアップ専門部会」への参画 10/4 「南海トラフ地震に対応した代替輸送訓練」〈図上訓練〉 ・北陸および東海地区の行政、荷主企業等 70 名が参加 10/7 「広域バックアップ専門部会」会場：敦賀市 ・「太平洋側大規模災害時における北陸地域港湾による代替輸送基本行動計画」(案)了承 (2017 年 1 月 13 日に公表済)	○左記「基本計画」は、コンテナ貨物を対象に、北陸地域港湾による代替輸送体制の構築や事業継続のための支援、災害時における情報共有等、災害時の北陸地域のバックアップ体制を取りまとめたもの。 29 年度以降は、バルク貨物を対象とした代替輸送を検討予定。 ○スマートロジスティクスの推進に向けた情報収集、勉強会等の実施
・高規格幹線道路の 4 車線化、ミッシングリンクの解消	・主催行事や三経連・西日本経済協議会等での国交省等に対する、代替補完機能等をアピールする要望活動 > 中部縦貫自動車道の早期全線整備 「永平寺 - 上志比」間の今年度内開通 「大野 - 油坂出入口」間の整備促進 > 能越自動車道の早期全線整備 「輪島 - のと里山空港」「病院西 - 七尾」間の整備促進 「田鶴浜 - 病院西」間の早期工事着手 > 東海北陸自動車道 「飛騨清見 - 小矢部砺波」間の全線 4 車線化工事早期着手 「白鳥 - 飛騨清見」間の 4 車線化整備促進 > 舞鶴若狭自動車道 「敦賀 - 舞鶴西」間の全線 4 車線化工事早期着手 「舞鶴西 - 綾部 PA」「綾部 - 福知山」間の 4 車線化整備促進	○要望活動実施 7/25～26 「政府に対する北陸経済界からの要望書」を与党等に提出。 8/1 「東海北陸自動車道建設促進同盟会」「東海北陸道地域整備推進協議会」→国土交通省に対し、早期全線 4 車線化等を提言 8/24 「全国高速道路建設協議会第 52 回大会」→大会参加後、石川県選出国會議員に対し高速道路ネットワークの整備実現を要請 2/28 「北陸地域懇話会」において国土交通省に対し、暫定 2 車線道路の危険性を指摘し、早期 4 車線化着手を要請した。 ○道路整備状況 中部縦貫自動車道「永平寺 - 上志比」間 →地質改良の為 2017 年夏前頃に延期 (当初 2016 年度中開業) 2017 年 1 月 17 日/国土交通省発表	○要望活動継続実施 ・未開通部解消および 4 車線化の早期着手・整備促進 →東海北陸自動車道、舞鶴若狭自動車道、能越自動車道、中部縦貫自動車道 ○NEXCO 中日本との情報連携

アクションプラン実施項目	平成 28 年度事業計画	実施状況	評 価・方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・北極海航路等利用拡大に対応する日本海港湾拠点の国際化 	<ul style="list-style-type: none"> ・整備促進に向けた北陸三県、他経済団体等との連携（政府への要望活動の実施等） <ul style="list-style-type: none"> ・クルーズ船誘致に向けた港湾整備 ・CIQ 対応の迅速化 等 ・各県港湾の利活用に関する勉強会の実施 ・東海地区での北陸港湾ポートセールスの実施（北陸港湾の利用拡大を荷主企業等へ PR 代替輸送訓練の機会を捉えて実施） 	<ul style="list-style-type: none"> ○要望活動実施 7/25～26「政府に対する北陸経済界からの要望書」を与党等に提出。 ○勉強会の開催 7/19「北陸港湾の利便性拡大に向けての勉強会」 <ul style="list-style-type: none"> ・北陸 3 県、北陸地方整備局等と、3 県港湾の最近の情勢、広域バックアップ専門部会の活動等について意見交換。 ○代替輸送訓練（図上訓練）参加者との懇親情報交換会 <ul style="list-style-type: none"> ・10/4「南海トラフ地震に対応した代替輸送訓練」実施後に情報交換会開催し、北陸 3 県の港湾関係者が東海地区の参加企業に対して北陸港湾の利用拡大を P R。 	<ul style="list-style-type: none"> ○要望活動継続実施 <ul style="list-style-type: none"> ・太平洋側代替機能を意識した港湾整備 ○3 県港湾関係者等との意見交換の場として継続実施 ○情報交換会出席者と情報共有、意見交換およびポートセールスの場として PR 継続実施
<ul style="list-style-type: none"> ・北陸地域内 2 次交通ネットワークの利便性の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・整備促進に向けた北陸三県、他経済団体等との連携（政府への要望活動の実施等） ・各県並行在来線利用促進協議会等への参加 	<ul style="list-style-type: none"> ○要望活動実施 7/25～26「政府に対する北陸経済界からの要望書」を与党等に提出。 ○協議会等参加 5/31 あいの風とやま鉄道利用促進協議会幹事会 6/6 あいの風とやま鉄道利用促進協議会→開業後の利用状況 および利用促進に向けた取組の報告 6/28 福井県並行在来線対策協議会幹事会→敦賀開業時の並行 在来線運営の基礎資料として、旅客流動調査結果の報告 3/30「いしかわ並行在来線金沢以西延伸対策検討会」 →委員に久和会長、幹事に専務理事就任。 	<ul style="list-style-type: none"> ○要望活動継続実施 <ul style="list-style-type: none"> ・地域利便性を確保するため、三セク会社への国による支援、JR からの運営および設備投資に関する協力支援確保。 ○バス・私鉄事業者との情報連携
<ul style="list-style-type: none"> ・北陸地域内空港の活性化（LCC の誘致、プライベートジェットの受け入れ推進等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・活性化に向けた行政、他経済団体等との連携による PR(政府への要望活動の実施、利便性向上の航空会社への働きかけ等) <ul style="list-style-type: none"> ・富山、能登、小松空港の便数維持、乗り継ぎ割引の拡大 ・成田空港の利活用（増便、国際便接続の利便性向上） ・域内空港間の国内外路線の重複日程、時間帯の是正による回遊性の確保 等 ・諸活動を通じて北陸を PR することによる海外 LCC の誘致支援 ・域内空港の利活用に関する勉強会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○要望活動実施 7/25～26「政府に対する北陸経済界からの要望書」を与党等に提出。 	<ul style="list-style-type: none"> ○要望活動継続実施 <ul style="list-style-type: none"> ・国内地方線路線網の拡充、利便性の向上（運航時間帯延長・乗継ダイヤ改善等） ・旅客、貨物双方における北陸圏内空港の国際線増便 ○航空会社との情報連携 <p><参考 東京 - 羽田便/日> 小松 10 便、富山 4 便、のと里山 2 便 (2017/3 月時点)</p>

平成 28 年度事業計画の実施状況と評価・方向性（国際交流推進委員会）

Ⅲ. 地域の魅力を積極的に国内外に発信することにより、人や企業を惹きつける北陸

1. 国際化の促進：国際交流推進委員会

アクションプラン実施項目	平成 28 年度事業計画	実施状況	評価・方向性
(1) 北陸地域・企業の国際化のあり方・方向性の提言 ① 経済活性化に資する企業の国際化に関する調査研究 ② 大学・研究機関との連携強化	・「地方創生と国際化」をテーマとした共同研究の実施 政府統計の個票データを用いて以下の調査・分析を行い調査結果を取りまとめ ・北陸企業の国際化の特徴（三大都市圏、他地方圏との比較）の把握と要因分析（福井県立大、北陸 AJEC） ・北陸企業の国際化と生産性・雇用・研究開発活動の関係（経済産業研究所、アジア経済研究所） ・北陸地域の産業集積と国際化の関係（アジア経済研究所） ・北陸企業の生産・販売ネットワークのパターンと国際化の関係（経済産業研究所）等	○研究会の開催（6/3、8/19） ○産学官連携に関するヒアリング（9/14、15） ヒアリング先：三県商工労働部、金沢大学 TLO（Technology Licensing Organization）、福井産業支援センター ○研究結果の取りまとめと公開 研究結果を「北陸製造企業の国際化と生産性」として取りまとめ（10月）。同報告書を経済産業所 HP にディスカッションペーパー（DP）として公開（1/30） ○アンケート調査の実施 統計分析の補完等のため北陸に本社機能がある北経連・北陸 AJEC 会員企業を対象にアンケート調査を実施（1月）	・政府統計の個票分析から得られた「北陸企業の国際化の特徴」、「北陸企業の国際化環境と生産性」、「北陸企業の産業集積と生産性、イノベーション」等についての新たな知見を「北陸製造企業の国際化と生産性」として取りまとめ、経済産業研究所の HP で公開した。 ・上記報告書に新たな章を追加して出版の目処を付けた。 ○研究報告書の出版 研究結果を「北陸地方創生と国際化、イノベーション」（仮題）として出版（日本評論社より 8 月末予定） ○研究報告会の開催 シンポジウムを開催し研究結果を報告（ジェトロ・アジア経済研究所と共催）
(2) 環境変化に対応した交流事業の方向性検討・実施 ① 北陸・韓国経済交流会議の効果的な実施	・「第 17 回北陸（日本）・韓国経済交流会議」（8/30、31 富山開催）の実施	○「第 17 回北陸（日本）・韓国経済交流会議」開催概要 テーマ：新たなる 50 年に向けた日韓関係第一歩の構築 日程：8/30～31 富山 参加者：日本側約 180 名、韓国側約 60 名 ・韓国からの企業 23 社を含む日韓双方計 240 名超の参加（過去最大規模） 概要：全体会議、自治体分科会、ビジネス分科会、日韓医療クラスター会議、企業視察、歓迎交流会	・北陸 AJEC が事務局となった第 11 回会議以来初の試みとして日韓企業間のマッチング（50 件）を実施。 両国企業の実情把握に大いに役立った。 ・自治体分科会では各自治体が推進する産業施策の成功事例の発表と少子高齢化をテーマに日韓自治体間で情報共有・意見交換を実施。自治体同士の交流が深まった。 ・韓国 MBC（慶尚北道）テレビが、本会議の内容と北陸を紹介する番組を韓国国内で放映。 ・来年度は韓国（慶尚北道・安東市）で 8 月 27 日～30 日に開催する予定。今後共、環境変化に対応した効果的な実施を検討する。
② 海外諸国との交流（ASEAN 諸国等）	・「日中経済協力会議」の開催支援	○「日中経済協力会議」11/21～22 富山 参加者：432 名 概要：中国東北 3 省、1 自治区と日中東北開発協会が主催、北陸 AJEC が共催、北経連が後援として参画し開催された。今回は交流会だけではなく、「課題解決型」会議として展示商談会や企業視察を行った	・「新たな中国東北振興と日中経済協力による課題の解決」をテーマとし、実行委員会、ワーキンググループから参画した。 ・富山とはじめてとした北陸地域を中国東北地域に知ってもらう機会として大きな意義があった。 ・日中企業のビジネスマッチングでは、20 社による展示商談会もあり、より効率的なビジネスマッチングが実施できた。
	・関係機関と連携した ASEAN との経済交流促進 ・ベトナムと北陸経済界との経済交流促進 等	○「ベトナム投資・貿易セミナー in HOKURIKU」10/6 福井 参加者：92 名 概要：在大阪ベトナム総領事館、福井県国際交流協会と連携し、ベトナムの投資・貿易政策、ビジネス環境等ベトナム進出や販路拡大に向けた最新情報を提供 ○「ベトナム政府高官との経済交流会 in 金沢」10/24 金沢 参加者：110 名 概要：ベトナム政府共産党幹部（副大臣・局長級）20 名がキャリア形成と両国の経済関係強化を図る目的で訪日。北陸へのフィールドトリップの機会に、経済交流会を開催 ○「第 3 回 韓国との共創セミナー in 金沢」12/7 金沢 参加者：61 名 概要：KOTRA、慶尚南道が主催、北経連、北陸 AJEC が共催で参画。最新の韓国経済動向、慶尚南道の現状、韓国若手人材の北陸での採用提案、北陸港湾利用による物流効果 について発表を行った	・ベトナムに対する北陸企業の関心は高い（北経連アンケート調査（H27/4、H25/10）でも海外進出希望国の 1 位でもある）。 ・ベトナム政府高官や北陸をみている在大阪ベトナム総領事館とのネットワークを作る機会として参加者の評価は高かった。 ・北陸の大学で学ぶベトナム留学生に交流会参加を促し、北陸企業との交流の場を設けた。本取組は他の国との交流会でも実施していく計画。 ・来年度は下記交流会開催を予定。 ○「ベトナム経済交流会 in 金沢」(5 月予定) ○「ベトナム政府高官との経済交流 in 北陸」(10 月予定) ○タイとの Otagai Forum 会議 in 富山(2018 年 2 月予定) (第 2 回 北陸・ASEAN お互い経済交流会議) ・韓国 KOTRA との共催で 3 回目の開催。 ・北陸の港湾活用の提案や、人材不足に対する韓国若手人材の雇用の案内等、北陸と韓国間の課題解決につながる提言を本会議で実施。 ・北陸の大学で学ぶ韓国留学生にセミナーや交流会への参加を促し、北陸企業との交流の場を設けた。 ・第 4 回会議を今年度も実施の予定。 ・海外進出支援として下記セミナーを予定。 ○「海外展開支援施策セミナー in 北陸」(6 月 13 日) ・中部経済産業局と連携

平成 28 年度事業計画の実施状況と評価・方向性（広域観光推進委員会）

Ⅲ. 地域の魅力を積極的に国内外に発信することにより、人や企業を惹きつける北陸

2. 広域観光振興：広域観光推進委員会

アクションプラン実施項目	平成 28 年度事業計画	実施状況	評 価・方向性
(1) 北陸三県の観光業界が一体となった広域観光の推進 ①「北陸観光サロン」等の開催による連携強化 ②観光産業を担う人材育成への取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・インバウンドを中心に著名な講師に依頼し、年数回講演会など開催 ・「北陸観光サロン」等で得た人材、団体と連携・協力し新たなしくみづくりを検討 ・大学生観光まちづくりコンテスト北陸ステージの誘致 ・北陸三県誘客促進連携協議会へ参画 afterDC など検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○「北陸観光サロン」等の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・第 4 回サロンからの発展(ゴ・エ・ミヨ) ・第 5 回サロン(Airbnb Japan 代表取締役田邊氏の講演他) ・「金沢・仙台おちかづき街道」旅行商品化相互プロモーション ○観光産業を担う人材育成への取組み <ul style="list-style-type: none"> ①大学生観光まちづくりコンテスト説明会 6/13、本選 9/13 <ul style="list-style-type: none"> ・北陸ステージの実施(18 大学 28 チームの参加) ②「北陸三県誘客促進連携協議会」(7 月 5 日) <ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年度理事会⇒アフターDC に向けた取組 ③広域連携プロジェクトチームによる広域観光推進策検討 <ul style="list-style-type: none"> ・メンバーの変更等検討要 	<ul style="list-style-type: none"> ○「北陸観光サロン」等の開催による連携強化 <ul style="list-style-type: none"> ・年 2 回程度の開催 ○観光産業を担う人材育成への取組み <ul style="list-style-type: none"> ①大学生観光まちづくりコンテスト北陸ステージの誘致 ②北陸三県誘客促進連携協議会への参加
(2) 国内外に向けた北陸の魅力のより効果的な発信 ①インターネットを使った海外への情報発信 ②北陸新幹線ルートを加えた太平洋側との「ゴールデンループ」の形成 ③国際会議等(MICE)の誘致に向けた支援	<ul style="list-style-type: none"> ・英語版ホームページの構築 ・国や沿線自治体へのアピール(長野県などでの PR 活動) ・政府要望への織込み ・大学、学会などの誘致活動 	<ul style="list-style-type: none"> ○ゴールデンループの PR <ul style="list-style-type: none"> ・名刺の裏面への掲載等による周知済 ○国際会議等(MICE)の誘致に向けた支援(5 月終了) ○観光大使の創設 <ul style="list-style-type: none"> ・本年度累計 23 名委嘱。名刺でのゴールデンループ PR 	<ul style="list-style-type: none"> ○インターネットを使った海外への情報発信 <ul style="list-style-type: none"> ・29 年度中に充実を図る ○北陸新幹線ルートを加えた太平洋側とのゴールデンループの形成 <ul style="list-style-type: none"> ・名刺の裏面への掲載等による周知⇒今後の展開
(3) 関東、関西、中部をはじめとする大都市圏との交流拡大 ①首都圏でのイメージアップイベントの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・江ノ電連携事業の継続 ・京急との連携事業の継続 ・首都圏でのプロモーションイベントの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○首都圏でのイメージアップイベントの実施 <ul style="list-style-type: none"> ①江ノ電との企画電車、伝統工芸体験教室(H29. 2. 25~26 実施) ②京浜急行との羽田での北陸プロモーション(H29. 3. 16~17 実施) ③北陸フォーラムの開催(於:ニューオータニー東京、H29. 2. 7 実施) 	<ul style="list-style-type: none"> ○首都圏でのイメージアップイベントの継続 <ul style="list-style-type: none"> ①江ノ電との企画電車の検討 ②京浜急行との羽田での北陸プロモーション
②経済団体、JR 他、関係機関との連携による交流事業への取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・「昇龍道プロジェクト推進協議会」へ参画 ・トップミッションへの会長参加、推進協議会への参加 ・昇龍道物産観光展実行委員会への参画 ・西日本広域観光ルート検討会への参画 	<ul style="list-style-type: none"> ○経済団体、JR 他関係機関との連携による交流事業の取組 <ul style="list-style-type: none"> ①「昇龍道トップミッション(ベトナム) 会長参加 H28. 8. 2~5 ②昇龍道物産観光展実行委員会への参画 ・バンコク伊勢丹での食品フェア 	<ul style="list-style-type: none"> ○経済団体、JR 他関係機関との連携による交流事業の取組の継続 <ul style="list-style-type: none"> ①「昇龍道トップミッション」参加 <ul style="list-style-type: none"> ・タイでのプロモーション ②昇龍道物産観光展実行委員会⇒中部広域へ移管
(4) 観光客の増加に伴う諸問題への取組み ①外国語表示・Wi-Fi 整備等	<ul style="list-style-type: none"> ・講演会等を開催して理解を深めるとともに、政府要望等へ織込む 	<ul style="list-style-type: none"> ○政府要望や他経連との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・前回の委員会での講演会を踏まえ、7 月に政府要望を行った。 ・中部広域観光推進協議会が企画する「(仮称)昇龍道 Wi-Fi プロジェクト」に中部経済連合会とともに参画。昇龍道エリアにおける Wi-Fi 環境の整備等を検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語表示・Wi-Fi 整備等 <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、理解を深め、政府要望へ生かす ・昇龍道エリアの無料 Wi-Fi 環境のプロモーションの実施(「(仮称)昇龍道 Wi-Fi プロジェクト」)
(5) 新たな視点での観光資源の発掘 ①長期的視点に立った発掘 <ul style="list-style-type: none"> ・長期滞在型観光の促進に向けた調査提言 等 ②女性ニーズ、外国人ニーズにマッチした施設、観光ルートの整備 ③ニューツーリズムの創造 <ul style="list-style-type: none"> ・教育観光と産業観光を組み合わせたニューツーリズム ・歴史、スポーツなどのニューツーリズム ・産業観光における時代別、分野別等のルート策定 	<ul style="list-style-type: none"> ・北陸のイメージ調査を実施、27 年度調査を基に長期滞在型観光視点から方策を検討 ・政府要望への織込み ・教育旅行誘致に関して、3 県、JR の主導する「北陸 3 県修学旅行誘致推進プロジェクト」(H28. 6 設置)への参画 ・修学旅行フェアの実施 ・新たな視点でのニューツーリズムの検討 ・北陸産業活性化センターの「北陸地域における産業観光の現状と課題」に関する調査及び研究結果を参考にして検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○北陸地域のイメージ調査から <ul style="list-style-type: none"> ・北陸経済研究所と委託契約し、アンケート実施済、長期滞在型観光など提案検討。⇒委員会で報告 ○修学旅行誘致を 3 県、JR と連携しながら模索 <ul style="list-style-type: none"> ・7 月 26 日修学旅行フェア ・8 月 3 日~5 日旅行代理店による北陸エクスカーション ・3 月 16. 17 日関東旅行代理店キャラバン ○北陸産業活性化センターの「北陸地域における産業観光の現状と課題」に関する調査及び研究に参加 	<ul style="list-style-type: none"> ○ニューツーリズムの創造 <ul style="list-style-type: none"> ・教育観光と産業観光を組み合わせたニューツーリズム ・歴史、スポーツ、文化などを組み合わせたニューツーリズム ・産業観光における時代別、分野別等のルート策定 <ul style="list-style-type: none"> ①教育旅行誘致に関して、3 県、JR の主導する「北陸 3 県修学旅行誘致推進プロジェクト」と連携 ②産業観光調査を分析。ネットワークを活用し推進

平成28年度 決算報告書

1. 貸借対照表 平成29年3月31日現在

(単位:円)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
現金・預金	31,515,543	西経協引当金	4,000,000
敷金(北国不動産)	1,343,200	創立50周年事業引当金	11,500,000
		情報機器等整備引当金	500,000
		退職給与引当金	827,064
		敷金(北国不動産)	1,343,200
		納税預かり金	51,882
		剰余金	14,636,597
合計	32,858,743	合計	32,858,743

2. 収支計算書 平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

(単位:円)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
会費収入	86,430,000	事業費	44,275,922
協力金	700,000	会議費	2,887,600
雑収入	14,510	人件費	9,871,818
引当金戻入	500,000	事務費	21,670,503
		引当金	6,700,000
前年度繰越金	12,397,930	剰余金	14,636,597
合計	100,042,440	合計	100,042,440

平成28年度 北経連 決算

(予算対比)

(収入の部)

(単位:円)

	平成28年度		差引(B-A)	摘 要
	予算額(A)	決算額(B)		
会費	82,000,000	86,430,000	4,430,000	会員および役員増員等による増収 <参考> 平成27年度会員数443名 平成28年度会員数453名
協力金	700,000	700,000	0	
雑収入	50,000	14,510	▲ 35,490	
引当金戻入	500,000	500,000	0	情報機器等整備引当金取崩し (ウィルスソフト更新に充当)
前年度繰越金	12,397,930	12,397,930	0	
合計	95,647,930	100,042,440	4,394,510	

(支出の部)

(単位:円、摘要は万円)

	平成28年度		差引(B-A)	摘 要 (万円未満 切り捨て)
	予算額(A)	決算額(B)		
事業費	50,750,000	44,275,922	▲ 6,474,078	
委員会活動費	22,300,000	17,921,011	▲ 4,378,989	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合対策委員会 492万円 ・ 社会基盤整備委員会 218万円 ・ 先端技術推進委員会 366万円 ・ 広域観光推進委員会 604万円 ・ 国際交流推進委員会 66万円 ・ 広報・組織基盤委員会 46万円
連携活動費	28,450,000	26,354,911	▲ 2,095,089	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会員懇談会等 430万円 ・ 他経済団体との懇談会等 689万円 ・ 行政との懇談会 174万円 ・ 支援団体への支援(北陸AJEC等) 685万円 ・ その他事業費 657万円
会議費	3,210,000	2,887,600	▲ 322,400	
人件費	10,200,000	9,871,818	▲ 328,182	
事務費	18,950,000	21,670,503	2,720,503	
引当金	700,000	6,700,000	6,000,000	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報機器引当繰入 50万円 ・ 退職給与引当繰入 20万円 ・ 50周年記念事業引当繰入 600万円
予備費/剰余金	11,837,930	14,636,597	2,798,667	
合計	95,647,930	100,042,440	4,394,510	